

現（言語，非言語）の仕方をさす。

### 3 「思いを伝える技能」が高まり，態度化が促進される学習過程

段階	学習活動・内容	学習方法等	留意点
導入	○ 安心感を高めながら，感情の表出を図る。	◇ ウォーミングアップ	
展開	認知スキルの育成 ① ある事柄や他者の言動を自己の知識や経験と結び付けながら，自己探求する ② 他者の情報を集めながら，特定の体験の中でどのようなことが起こっていたかを振り返る ③ ②で内省したことや，教師，級友からのフィードバック情報を分析し，一般化する	◇ モデリング学習 ・ ロールプレイ ・ シェアリング ◇ プレーンストーミング	* 自分自身の在り方については，行動，感情，思考を重視する
	ル行の動育ス成キ ① 良好な人間関係づくりに必要な行動を計画する ② 実験的に試みる。またそのことについて振り返る	◇ リハーサル学習 ・ ロールプレイ ・ シェアリング	* 伝達役と受け手役の両者からのフィードバックを通して，ねらいの強化を図る
終末	○ 活動を振り返り，自己を見つめ直す	◇ シェアリング	* 学んだことを実際場面で試みるよう勧める

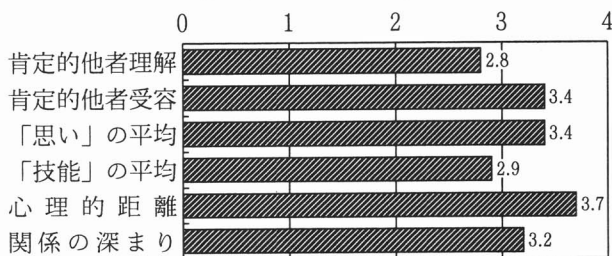
※ シェアリング…「振り返り」の意味で，活動中での気づきや感情を明確にしたり，共有したりしながらねらいを定着させる。

### 4 指導援助の実際

#### 《小学6年生》

#### (1) 指導援助のねらい

(資料5) 事前調査結果



事前調査の結果（資料5）から，次の点が問題として浮かび上がった。

「肯定的な他者受容」と「思い」，「心理的距離」が高い数値を示している反面，それが「友達関係の深まり」に反映していない。これは，「肯定的な他者理解」（友達，自分のいいところを知っている）

#### (2) 指導援助計画

授業（学級活動）等		日常の指導
授業1の事前活動	◇ 「聞く」「話す」ことが両者の関係づくり，維持，向上，改善に大切なものであることをとらえられるようにする。 → 基本的スキルの育成	<input type="checkbox"/> 自己肯定感をはぐくむ指導援助 <input type="checkbox"/> 互いを受け入れ合おうとする態度をはぐくむ班ノートの実施 <input type="checkbox"/> 感情の安定を図る指導援助 <input type="checkbox"/> 心身のリラクセスやストレスの軽減をめざしたリラクゼーションの実施 <input type="checkbox"/> ロールプレイのレディネスを高める指導援助 <input type="checkbox"/> 自己表現・表出を促進するショートゲームの実施
授業1	◎ 攻撃的，非主張的，アサーティブの3つの自己表現を知り，アサーティブな自己表現のよさをとらえることができるようにする。	
授業2	◎ アサーティブな自己表現の仕方がわかり，日常生活の中に生かして他者とかわらうとする意欲を高められるようにする。	
授業2の事後活動	◇ 学級・日常生活場面で，アサーティブな表現ができるようになる。	

と「技能」が低いことが影響していると考えられる。また，「いいと思う学級の雰囲気」の自由記述からは，「何でも話せる」「人の気持ちを考えてあげられる」ことを良好な友人関係ととらえている一方で，「欠点の自己受容」の自由記述からは，「すぐ怒ってしまう」「気になることを言うてしまう」など，他者を受け入れようとしながらも，感情をおさえて友だちと接したり，上手に自己表現できていなかったりする面もあることがわかった。これらのことから，良好な友人関係を築きたい思いは高いが，それを具現する自己表現の方法が十分に身に付いていないのではないかと考え，指導援助のねらいを次のようにした。

肯定的な他者理解や他者受容を中心に自己肯定感を高めたり，感情の安定を図ったりする日常の指導を基盤に，相手の思いを受けとめる認知スキルと，自分の考えや感情を素直に表現できる行動スキルを育成しながら，アサーティブなコミュニケーションスキルを身に付ける。  
※ アサーティブ…単なる自己主張ではなく，相手の立場を尊重しながら自分の感情や意見を素直に表現すること